

内閣総理大臣

安倍晋三殿

## 原子力規制委員会 島崎邦彦委員長代理の更迭を求める署名

現在、原子力規制委員会委員長代理の島崎邦彦氏は、「活断層理論」に基づいた独善的姿勢に拠って、原発の安全審査開始の是非を判断しておられます。

しかし、活断層理論および理論の基底にあるプレートテクトニクス理論なるものは、一つの仮説に過ぎず、信憑性の薄いアメリカ生まれの地震説に過ぎません。

そもそも、昭和36年(1961)の春季地震学会において、アメリカから帰国した元アメリカ地震学会会長安芸敬一氏(元東京大学教授)が「私は洗脳されて帰ってきました、地震は断層です。」と転向発言をされるまでは、日本の地震学界は石本巳四雄博士や小川琢治博士(湯川秀樹博士の実父)が提案した「マグマ貫入爆発理論」が主流であったのです。

当時、活断層理論を信じる地震学者は少数派だったのです。「マグマ貫入爆発理論」が否定されたのは地震時に表れる初動の押し引き分布が「爆発現象」では説明できないという単なる思い込みからです。しかし爆発の原因が熱解離した水素と酸素の爆縮と平衡破綻型爆発の複合した現象であると考えれば、何の矛盾もなく支持できる理論なのです。

地震爆発論学会では、断層は地震の結果現れる地皮の断裂現象であって、活断層理論は原因と結果を取り違えた妄想理論であると断定しております。

つきましては、原子力委規制委員会委員長代理の地震学者島崎邦彦氏は妄想理論に基づいて原発の安全性審査という重要な国家事案の判断を決していることは明白です。

これは大変危険な判断であり、地震爆発論学会としては、島崎氏の更迭を要求します。

要請項目

島崎邦彦委員長代理を更迭すること

署名簿

氏名	住所	電話番号
		( )
		( )
		( )
		( )
		( )

地震爆発論学会 SEDeT (会長:元名古屋工業大学教授 工学博士 石田昭)

〒465-0024 名古屋市名東区本郷 2-57 CIM 第三本郷 S-203 Tel:052-771-9960